

楠正行、四條畷合戦

正平3年1月5日 巳の刻(午前10時)～申の刻(夕方4時)の激闘6時間

教育文化センター「市民教養講座」資料を一部改訂 扇谷 昭 2015.07.06

第1期	野崎辺り	①	正行率いる 楠軍1000騎 、本陣を置く往生院から四條畷に向け進撃 高師直率いる足利軍約40000騎、忍ヶ丘から野崎方面にかけて、東高野街道筋、飯盛山山中、山麓に布陣。
		②	飯盛山南方の尾根に布陣していた 藤下野の守率いる先陣、白旗隊3200騎 、飯盛山山腹から馳せ下って、両軍最初の激戦。藤下野の守、身に傷を受け、敗走。
第2期	十念寺西辺り	③	この頃、飯盛山南方に布陣した四條隆資軍、退却。飯盛山に布陣した河津、高橋を旗頭とする大旗隊との交戦記録はない。
	北条神社附近	④	四條の畷道(東高野街道)、十念寺西方に布陣した 武田伊豆の守信武1000騎 と汗馬東西に馳せ違い、追いつ返しつ旗織南北に開き大激戦の末、武田軍700騎を、全滅させる。
第3期	北条神社附近	⑤	小旗一揆衆、長崎彦九郎ら屈強の48騎 、北条神社附近の小松原より松木立を分け降り、駆け下り、山を背後に楠軍を山麓に見下ろして、 正行軍 の前面を遮断。
		⑥	小旗一揆衆に行く手を阻まれ 正行軍 の態勢乱れる虚を突かれ、当初、生駒に布陣したが急きょ山道を返し、 飯盛山南の峰より佐々木道誉3000騎 、三手にわかれて山を駆け下り正行軍分断のため反復襲撃。大塚惟正率いる 正行軍 の後陣敗れて、残るは 前陣の300余騎 となる。
		⑦	第一陣の一番手、 細川相模の守清氏550騎を破り、二番手、仁木左京大夫頼章1800騎を蹴散らし、三番手、千葉介貞胤2700騎・宇都宮遠江入道貞泰650騎と三度交戦 し、退却させる。 正行軍 、第一陣の三番手、千葉らとの交戦で100騎が討たれる。 正行軍、200騎余りに。
		⑧	正行軍 、田の畔を見つけて、背中を押しあて、兵糧食を摂り、英気を養い態勢を整える。
		⑨	東高野街道沿いに布陣していた第二陣、 細川讀岐の守頼春1900騎、今川五郎入道範国2100騎、佐々木六角判官氏頼3100騎 、あわせて7100騎、 正行との全面衝突を避け 、正行の退却を促す作戦で一致し、静かに前進。そして、一部の精鋭兵を選抜の上、正行めがけて攻撃開始するも、各隊とも五、六十騎を失い、潰走する。
		⑩	第三陣の 備中の守護、南遠江守宗継2200騎 、重臣、南次郎左衛門尉、 正行軍 の槍隊の前に崩れ落ちる。 引き続き、第三陣の 備前の守護、松田備前の守盛綱2300騎 、重臣、松田次郎左衛門、和田賢秀の薙刀によって一撃のもと倒される。 南、松田のほか、 萩野尾張の守朝忠700騎、土岐周斎房と明智三郎900騎 、隊列を保つことができず散り尻になって退散。
4期	四條畷保健所東一带	⑪	正行の乗馬「初霜」、足と胴に矢を受け、下馬を決心。
		⑫	正行軍 、一步も引くことなく 高師直本陣5300騎に肉薄 し、その距離半町(約55メートル)に迫る。
		⑬	高師直の身代わり、上山六郎左衛門高元、「武功天下に顕れたる高武蔵の守師直、是にあり」と、大声で名乗る。 賢秀、良円、刑部、行忠、正家ら偽師直を取り囲み落馬させ、 正行喉を刺し、「敵将高師直討ち取ったり」と絶叫 するも、偽首と分かり、ぬか喜びする間に後退を余儀なくされる。
5期	小楠公墓所東	⑭	退く 正行軍 を高師冬数百機が迫ると、正行は師冬軍に襲いかかり、退散させる。この頃には、 正行軍、50騎程に激減 。
		⑮	高刑部太夫輔師兼、四周に弓矢隊を配置し、正行めがけて一斉に弓を弾く作戦を献策。
		⑯	弓矢隊の中心に据えられた 九州の住人、須々木四郎の強弓 を射たてられ、残兵ごとく重傷を負う。 正行、須々木四郎の放った矢で左右の膝頭を三か所、右の頬、左の眼尻を射られる。 正時、同じく須々木四郎の放った矢に眉間と喉の脇を射られる。
最期の地	JR四條畷駅南信号機辺り	⑰	「敵手にかかるな!」と、正行、正時刺し違えて、討死。自余の兵32人も腹掻き切って自決。
エピソード	師直本陣	⑱	賢秀、薙刀をつえ代わりに、師直の手勢の中に深く入り込んだが、河内から幕府方に投降した湯浅本宮太郎左衛門が賢秀を見破り、賢秀の首を搦ろうとした。賢秀は、大きな目がかつと見開き、湯浅をぎろりとにらみ、その眼は最期の時まで閉じることなく、湯浅に首を取られた。湯浅は賢秀の見開いた目に悪間の走るのを覚え、その後立つことができず、数日後に落命。
		⑲	大塚掃部の助惟正は、いったん馬で遠くまで落ち延びたが、正行の討死を聞き、取って返し、切りあって討死した。
		⑳	和田新兵衛正朝は、東条へ逃げ帰る途中、安保肥前の守忠実には追いつかれ、加勢も加わり、ついに首を討ち取られた。